

fidata HFAD10-UBX の導入(11)

—CD 再生(3)—

1. はじめに

前報(8)に引き続き、CD 再生の音質を評価します。

2. fidata HFAD10-UBX の試聴情報

接続は、前報(1)のとおりです。

HFAS1-S10←HFAD10-UBX (to Host B 端子)

HFAD10-UBX (to Device for Audio A 端子) →Brooklyn DAC+

試聴対象の CD は、お馴染みの下記のものとなります。

ARCHIV POCA-1139/40

ヘンデル メサイア

Paul McCreesh 指揮 Gabriel Consort & Players

PAN CLASSICS PC 10351

ヘンデル メサイア

Daniela Dolci 指揮 Musica Fiorita

3. fidata HFAD10-UBX の試聴結果

今回の ARCHIV 盤は 1997 年の録音、PAN CLASSICS 盤は 2015 年の録音であり、録音年代が新しいので Brooklyn DAC+での位相変転は試みの必要はないですが、一応やってみます。

Paul McCreesh 指揮 Gabriel Consort & Players のメサイアは、合唱は良く分離し、ソリストの歌唱も、古楽アンサンブルの質感表現も十分です。試みに Brooklyn DAC+での位相変転を行いますと、合唱は明瞭さを欠き、ソリストの歌唱の定位が曖昧になります。

Daniela Dolci 指揮 Musica Fiorita のメサイアは、Musica Fiorita の古楽器の質感が再現されており、ソリストの歌唱は伸び伸びと豊かな残響を伴って響きます。試みに Brooklyn DAC+での位相変転を行いますと、合唱が濁り、ソリストの歌唱の定位が不明瞭になります。

2CD の双方とも、これまでの USB ハブを介する PC 用ドライブからの再生とは、録音の新鮮さを反映して、ディテールの再現やダイナミックな表現で大きく差をつけています。

4. まとめ

HFAS1-S10 と HFAD10-UBX の組み合わせによる CD 再生は、これまでの HFAS1-S10 と PC 用ドライブと USB ハブの組み合わせによる CD 再生と一線を画すものです。録音の新しい古楽アンサンブルと合唱を伴ったメサイアの雰囲気がよく出ています。

以上